

会 議 名	第4回港区幼稚園教育振興検討会
開 催 日 時	令和7年7月31日（木）17時30分～19時
開 催 場 所	港区役所9階 914・915会議室
委 員	A委員（委員長）、B委員（副委員長）、D委員、E委員、F委員、G委員、H委員、I委員、J委員、K委員、L委員
欠 席	C委員、
事 務 局	教育推進部長、教育推進部教育長室長、教育推進部教育長室教育推進担当係長、学校教育部学務課長、学校教育部学務課学校計画担当係長
傍聴者	なし
会 議 次 第	1 保護者アンケート調査結果について 2 幼稚園教育振興検討会で出された主な意見等について 3 その他
配 布 資 料	資料1 港区幼稚園教育振興検討会委員名簿 資料2 区立幼稚園の魅力向上に向けたアンケート調査結果（概要） 資料3 区立幼稚園の運営に関わるアンケート調査結果（概要） 資料4 幼稚園教育振興検討会で出された主な意見等
主要な意見等	
D委員	1 保護者アンケート調査結果について ○資料2、3を用いて事務局から説明。 資料2の項番2、子どもの通園施設の設問3～5歳のところで、実態と全く一緒ではないかもしれないが、インターナショナルスクールとの回答が13.7%、認可外保育施設が5.8%、合わせて20%程度というのは、注目すべき数字だと思った。ほかの区、ほかの地域では考えられないくらい、インターナショナルスクールや認可外保育施設へ通っている方々が多いということは、ちょっと驚きの数字だと思う。もう一つ、資料2の項番6、施設情報の入手方法という部分について確認したい。その他の具体的な内容として友人や周囲からの口コミも多数ということだが、具体的なパーセンテージは出ていないのか。
事務局	通園施設について、インターナショナルスクールや認可外保育施設の割合が高く出ているというところはお意見にあった通り実数とはまたちょっとずれるところあると思うが、傾向として港区の特徴であるとは捉えている。別に実施した区立幼稚園のアンケート調査の方でも、インターナショナルスクールや認可外保育施設も検討していたという方の割合が高い傾向にあった。そうしたことも捉え、区立幼稚園、また私立

	幼稚園の振興策の検討が必要なのではないかと考えている。情報の入手方法については、元々設問を作る際に選択肢に口コミというものを設けていなかったため、パーセンテージでは出せない状況。「その他」を選んだ方で、具体的な内容を自由記述いただいた中に、友人からの口コミというものが多数あったため、今回記載した。選択肢に「友人等からの口コミ」と設けていたら選んだ方も一定数いらっしまった可能性はあるが、はっきりと数値として示すのは難しい。
H委員	回答の仕方として把握したい部分がある。資料2の設問3や4に関しては、複数選択可能の回答方法か。また、回答数に関しては、上限とかは含まれているか。
事務局	資料上記載がないが、設問3、4については複数回答可能であり、選択する数の制限を設けずに回答していただいたものとなっている。
J委員	アンケートを実施していただいて感謝している。アンケートを読んで感じた課題と今後の取組についてご意見させていただきたい。0～2歳の子どもを持つ保護者の方が3歳から安心して区立幼稚園を選択できるようにするために必要だと思ったことが4点ある。1点目は平日の預かり保育の時間を理由を問わず8時から18時までとし、より柔軟にできる体制を整えること。2点目は長期休業中の預かり保育も、今やっっているものから拡大して希望する全ての家庭が利用できる環境を整えること。3点目はアンケートでは給食というフレーズが出てきているが、配送弁当を無償化にすること。4点目は土曜日などに保護者会や入園説明会を開催すること。働いている家庭は土曜日のほうが参加しやすいのではないかなと思う。資料2の設問3、幼稚園に求める取り組みについて、0～2歳の保護者の方の回答が「教育・保育内容の充実」の項目が高く出ている。私の子どもは年長、年中と区立幼稚園でお世話になっているが、いまの幼稚園に転園してからは自信を持って行動できるようになり、区立幼稚園の教育の質の高さを日々実感している。この魅力を伝える手段として、アンケートにもあったように、幼稚園のホームページ、口コミサイトなどを幅広く活用し、多くの家庭にPRしていけるといいのではと思った。同じ設問の「教育・保育内容の充実」の具体的内容の部分、挨拶や日々のマナー、礼儀作法という意見があったが、以前保護者の方から聞いた話で、幼稚園では名前が読めれば大丈夫と言われたが、小学校に入ったら、名前が書けることが前提だったという話があった。幼稚園と小学校の連携や情報共有をさらに強化できたらいいと思った。
H委員	「教育・保育内容の充実」の具体的内容の部分、0～2歳、3～5歳の回答いずれも、英語やダンスなどの習い事等に関する体験を望む声が多く見受けられる。そのあたりを重視している方が多いということは、幼児期において育むべきこと、幼児教育の中で大切なことは何かということが、具体的に保護者の方に広まっていないことを示しているのでは。通わせる幼児教育施設を妊娠中から検討している方が多いということから考えると、妊活されている方、妊娠中の方から、幼児教育に何が大事なのか、本来本当に必要なものは何なのかという部分について周知を徹底していくことが必要になってくるのでは考える。

D委員	このアンケート調査の目的と位置づけについて、共通認識を持ちたいと思う。このアンケート調査の結果のみをもって幼稚園の望ましい姿を考えるのではなく、あくまで参考資料の一つとして捉えるべきだと考える。現在の保護者の考え方はこの調査で明らかになるが、私たちがもう一つ考慮すべきは、子どもにとって本当に大切なことは何かという視点。現代の幼児教育において重要視されているのは、早期の認知能力教育よりも非認知能力を育むこと。たとえば保護者の方々の中には早期の算数教育などを望む声があるだろうが、その声だけに基づいて幼児教育のあり方を決めるのは違うのではないかと思っている。要望を受け止めつつも、子どもたちの健やかな成長にとって何が最善かを総合的に検討し、今後の振興策を検討していくことが非常に重要だと考えている。港区の方々も同様のお考えでアンケートを実施されたと思うので、この調査結果を背景として持ちながら、本来あるべき振興計画を策定していくという視点で議論を進めていければと思う。
A委員	数日前にもテレビで取り上げられていたが、早期教育のようなことを実施している幼稚園を紹介すると、住民の方はやっぱりそれに感化されてしまうように思う。基本的には幼稚園教育は、D委員の発言にあったような教育のあり方をずっと推進してきたが、それがうまく浸透しきれてないところがあるのかなと、このアンケートから感じ取った。 2 幼稚園教育振興検討会で出された主な意見等について ○資料4を用いて事務局から説明。 ○欠席のC委員から事前にいただいた以下の意見を全体で共有。 ・これまで3回の会議の進め方では具体的な政策を示すことは難しい。 ・具体的な施策として園庭の自然環境をより豊かにするための方策、困難な教員の確保策、近年の夏の極端な暑さ対策（ミスト装置の設置等）を具体化すること。 ・子どもたちの最善の利益の観点から、預かり保育の今以上の拡充は暴論。
G委員	資料4の2番の地域における幼児教育施設の役割というところに大きな関心がある。ほかの委員からも今まで何度か意見があったが、幼稚園が教育センターとしての役割を担っていくことが求められているのではと思う。地域の人に幼稚園の施設を開放したり、今まで未就園児クラスや子育て相談会はいろいろな園で実施されているかもしれないが、そのほかにも例えば公開保育や保育参観なども保護者だけでなく、地域の方ないし入園を希望されている保護者に向けても実施してはどうかと思う。また、子育て講座などの公開というのも1つあると思う。私立幼稚園PTA連合会では保護者を対象に有識者や著名な講演者の方をお呼びして講演会を開いており、これまでは区民ホールで対面のみで実施していたが、近年オンラインの配信も実施している。保護者以外でも興味のある方がいらっしゃるようであれば、そういったことの公開もできるのではないかなと考えている。あとは公私立に関係なく相互に関わり合える行事などがあってもいいと思った。今年の夏はお隣の区立幼稚園から招待をいただいてお祭りに参加させてもらった。子どもたちはその話を聞いた日からすごく楽しみにしていて、そういった地域との関わりを肌で感じ、楽しそうにしている姿がとても印象的だった。卒園後の小学校の接続を目的として小学校に見学に行くなど、そういったこと

を通じて、幼稚園と一緒に、一体となって進めていただけたらと考えた。先ほどのアンケートにも関わってくるが、港区の保護者の方々は情報がすごくあって、子どもが生まれる前からいろいろなことを調べている。先ほど区立幼稚園のご家庭の就労状況で片働きの方が6割いるということで、そういった比較的時間に余裕がある方も、インターナショナルスクールや保育園も選択肢の中にあり、保育園が始まる0～2歳の間に、1度その環境に触れてしまうと、3歳になってからあえて外に出ようとはしないことが多いのではと思う。もちろんインターナショナルスクールや保育園も素晴らしいものだと思うので、そこで満足して幼稚園への転園が検討対象にならない場合もあると思うが、先ほどの意見にあったとおり子どもの生まれる前、それが難しければ母親学級や離乳食の講座など、保護者が利用する機会もあるかと思うので、そういったときに、幼稚園を選択肢として見ていただけるようなPRの方法があればいいのではと思う。例えば幼稚園PTAがそうした保護者に対して何かお話しすることもできるし、こうした講座で資料を配布するなどもできるのではと感じた。

H委員

一番はやっぱり幼児期に大切な育ちの内容、遊びの中でどれだけ子どもたちが育っていくのかという、その具体的なところの周知が足りていないと感じる。これまでもお伝えしている内容ではあるが、今回のアンケート結果の中からも出ている部分ではあると思うので、今後拡大や内容の充実を課題にしていきたいと思う。G委員のお話を聞くまで、私立幼稚園PTA連合会で講演会を実施していることを知らなかった。やはりそのように公開しているものがあっても周知がされきっていないというところは大きくマイナスになってしまうのでは思う。先日、区立幼稚園PTAでも公開の講演をしており、皆さんの協力も得て、各地域の掲示板や区の配信ツールを使って周知に力を入れたが、それでも知らない方もいたので、もったいないと感じる。区を挙げてぜひ全体的に周知をしていけるような工夫があるといいのではと思う。妊娠中から幼児期のことまで検討している方が多いという部分でいうと、今のお母さんたちは子育てに関するサービスがかなり充実している環境の中にいる。一時預かりなども、0歳の頃から就労等関係なく一時的に預けられる場所がすごく増えているし、ベビーシッターの補助も就労など関係なく、年間何百何十時間使うことができ、サービスを受けることにすごく慣れているという印象が強い。幼稚園はどちらかというとサービスを与えるというよりは、教育を与えている場。しかし今までサービスを受けることに慣れて生きていたお母さんたちは、こんなに私達も大変なことしなきゃいけないのか、とか、泥んこになって遊んだあとの洗濯大変だなとか、幼稚園に対してそうした懸念を持ちやすいということは肌感として実感している。そういったところも踏まえて、サービスに慣れている方たちは、サービスのより高い保育園や認可外保育園、インターナショナルスクールというところにサービスを求めているのだろうなという印象を受けている。そのサービスを受けていた人たちが小学校に入ったときに初めて教育を受け始めて、そこで葛藤が生まれてきているようにも感じる。それが小学校の運営がなかなかうまくいかないというところにも繋がってきているのかもしれないとも感じる。サービスを提供すること自体が悪いことではないと思うし、子育て最初の部分のスタートがうまく切れていけるようにするというのはすごく重要なことだとはもちろん思うが、教育の内容がサービスだけではないということを知ってもらうことが必要になってくるのではないかなと思っている。

I 委員

資料4の項番の3,4番あたりにわたる網羅的な話になるかもしれないが、幼稚園の魅力は自分が子どもを通わせていてとてもよく伝わってくるし、検討会で皆様のお話を伺っても、幼稚園の方々が非常にしっかりとした理念で子どものこと見てくださっているというのがすごく伝わってくる。子どもにとっての最善のことを考えるといったときに、教育内容などとは違う視点もあるのかなと思っていて、例えば幼稚園に入れるための手続きが保育園に入れるときと手続き自体が違うので、すごく大変な印象を受ける。子どもを保育園から幼稚園に転園させるとき、実際に自分はそうした印象を受けた。保育園だったり、インターナショナルスクールだったり、子どもを通わせる施設があると思うが、同じような手続きで進められるように改善してほしいと感じた。手続きに労力を割かれることで、保育園や幼稚園の教育内容についてよく調べて検討する時間が奪われているように感じており、手続きが簡単になれば改善できるのではと思う。例えば共働き家庭だと最初に選択肢として出てくるのがまず保育園で、保育園の中でどの保育園にしようというところから始まるので、まず幼稚園が最初から選択肢に挙がることはなかなかない。そうすると幼稚園がどれだけ魅力的でいっぱいPRをしたとしても、まずそこの俎上に上がらないという状況になる。まず手続きを一本化して、子どもをどこかに通わせたい場合はここで手続きをすればいいというのがあれば、もう少し子どものことについていろんなことを考える時間が生まれるんじゃないかなと思う。今回のアンケートを見ていると、幼稚園に通わせている保護者は教育内容に満足していると思うので、今のままの状態でもその魅力がより多くの人に伝われば、そして共働き世帯も含め子どものことを考える時間をもう少し増やせることができれば、そのことが幼稚園教育の振興に繋がるのではと思った。あとは預かり保育は正直、保護者としてはすごく充実はしていて欲しいというのが本音。ただ、むやみに時間を延ばして内容や水準が落ちるようなことはやって欲しくないと思う。わがままな意見かもしれないが、そのためには、おそらく教員の方の待遇やそういった制度面を考えていく必要があるように思う。保育園ほど充実しないにしても、そうした制度が今よりも充実すれば、例えば、一時間でも預かり保育の時間が延びれば、それだけで子どもを幼稚園に通わせられるようになる親御さんもいると思うので、その辺りの制度整備を検討していただけるといいのかなと思う、

J 委員

4番の教員の確保とインターナショナルスクールについて。私自身は栄養士として現場で働いた経験があり、先生たちのご苦労はよく理解している。そのうえで現在の幼稚園の国の基準は本当に最小限の体制で、何かあった場合に十分な対応ができるか不安に感じることもある。例えば娘は食物アレルギーがあり、万が一の際には、エピペンを使用したり病院に連れて行ってくださる先生が必要になると思う。そのような緊急時にも先生が1人お休みだった場合、十分に対応できる体制なのか少し心配になることもある。区立幼稚園の先生について、そう簡単にはできないのかもしれないが、港区が先駆けて検討していただけたらと思う。またインターナショナルスクールについては、ほかの保護者の方が窓口で「補助金が出るから教育方針が合えばインターナショナルスクールもおすすめだ」と言われたことがあったと聞いた。そうした窓口でも幼稚園の良さがしっかり伝わるような発信やサポートがあれば、幼稚園を選びやすくなるのかなと感じた。

K委員	3番の部分について。アンケートでも、共働き世帯が8割程度いるなかで、一定の条件が整えば幼稚園が検討対象に入るという回答が多かった。区立幼稚園でもパートタイムや、フルタイムでも育児短時間勤務が可能な家庭の方々にとって、幼稚園が選択肢に入るくらいまでには、一定程度答えていく必要があるのではないかと考えている。具体的には預かり保育の時間の拡大、夏休みなどの長期休業中の預かりなども、入園のハードルになっているのではと考えているので、その点については検討していきたい。特に長期休業中の預かり保育については、現在は保育園で夏休み期間に幼稚園の子どもなども預かる事業を実施しており、今年度は区立幼稚園の園児の方が35名、私立幼稚園の園児の方が75名利用していると聞いている。必要な方には夏休み等の期間についても普段通り慣れた幼稚園で過ごせるように場所を提供できた方がいいと思っている。しかし検討会の中でも、時間が長くなればその中身の充実も重要だというご意見や、子どもの利益にならなければ意味がないといった意見も出ているので、その点については職員配置や教育課程との連携も踏まえて教育内容の充実させていくことも重要だと考えている。先ほどのアンケートの中でも、教育・保育内容の充実といったところを望む声もあったが、区立幼稚園を選択した理由の部分は、自宅に近いからという回答が最も高くなっていた。それ自体は悪いことではないが、教育内容などの中身の部分もしっかり見て選んでいただけるように充実していく必要があると思っており、引き続きそこは区立幼稚園の課題だと感じているため、しっかり検討していきたい。
D委員	強く思っていることから言わせていただくと、教育課程外の教育に関して、親の目から見ると、就労に合わせた体制が整うことはありがたいという声が出てくるのは当然だと思う。一方で、子どもの声はどう反映したらいいのだろうか。例えば、5時を過ぎてもまだ保護者に迎えに来てもらえない子どもの声など。孫が保育園に行っており、迎えに行くことがある。5時まで迎えに行くときと、7時前に迎えに行くときでは、孫の顔、あるいは周りにいる子どもたちの顔が違うと感じている。この状況は、本当に子どもにとって幸せなのだろうか、と考えさせられる。港区は、今の教育課程外教育の中でも何とかやれる、日本の中でも極めて珍しい地域状況が揃っているという特徴がある。その中で、親の声があるからといって預かり時間を延ばしていくのはどうだろうか。先ほど意見にあったような8時から18時までの預かりを実施したとして、「7時半から18時半まで預かってほしい」という声が次にでるだろう。結果的にどんどん預かり時間が長くなってしまふことを危惧する。やはり幼児教育ということを見ると、幼稚園で実施する教育課程外の教育はここまで、という制限は必要なのではないだろうか。むしろ、この時代だからこそ、そのようなことを積極的にやっていく必要があるのではないかと、私の大きな思いとしてお伝えしたい。先ほど一委員から「預かり時間が長くなっても、その質を改善していったらいい」という旨の発言があったが、そういう問題ではないと思っている。やはり子どもたちのことを考えると、預かり時間はここまでというのがあって、いい人材を整えて時間を長くすれば良くなるということではないと思う。デンマークでは、3時になったら保護者は仕事を片付けはじめ、4時には全員会社から帰り、5時には子どもを迎えに行くということが当たり前に行われている。そうした子育ての期間の短時間労働のよう

なことを目指せないのだろうか。もう一つは、最近、保育者や幼児教育者を養成する機関がどんどん減っており、そうした人材を育てられない状況が社会の中で生まれている。また、教育現場の中にいる教員や保育士たちの中では、一人ひとりの子どもの育ちや保護者の価値観が多様化していく中で、保育の難しさを感じるようになってきたという認識がある。子どもや保護者に対する一つ一つの対応が難しくなっており、いわばクレームのようなものもあり、保育がどんどん萎縮していくという現実もある。さらには、それが保育士や幼稚園教諭は大変だというイメージにつながり、なり手が減っているように思う。教員の確保、そして働いている教員たちが少しでも良い労働環境の中で働いてもらえるということを考えていかなければならないと思う。

E 委員

2 番の地域における幼児教育施設の役割と 5 番の幼稚園の魅力 P R や発信についてお話ししたい。第 1 回目の時から話しているが、地域との関わり、地域のなかの幼稚園ということが、私のできることなのではないかと感じている部分。やはり私立幼稚園はその地域で何十年もやっているというようなところであるので、地域との関わりを深めながら、また先ほど G 委員の意見にもあったような、保育参観や子育て講座などもやっていきたいと思っている。園長をやめたらやりたいことがたくさんあるが、それを幼稚園でできるようにしていきたいというのが一つある。そのためにはやはり 5 番の情報発信というのがとても大事になってくると思っている。具体的な周知の方法であったりとかホームページを使ったりとか、もし区の中で幼稚園がここに載せれば情報発信ができるというようなページがあったりするととてもいいと思う。それから、今保護者の方々のお話を聞いていて、お母様たちの状況や情報を幼稚園側はあまり知らないというのを感じており、出力もとても大事だが、入力というところに関しても、とても重要と感じた。こうした話し合いの場を通じていろいろなことを私達も聞いて、悩んでいること、欲しいと思っている情報を知ることができると、幼稚園としてどのように取り組めばいいかということも見えると思うので、そういったところも積極的に取り組んでいきたいと思う。C 委員の意見については、私立幼稚園連合会の理事会でも話し合っていたことで、ミストのことも含めていろんな話が出た。C 委員の意見にはとても賛成しているので、ぜひよろしくお話ししたい。

F 委員

何番というよりも総合的にお話しをさせていただければと思う。預かり保育については子どもの幸せを考えた上でという大前提があり、時間を際限なく延ばせばいいわけではないことも、本当にその通りだと思っている。区立幼稚園やほかの保育施設でもそうだが、アンケートでは自宅から近いということで選ばれる割合が高い数字で出た。小さいお子さんを連れて遠くの施設に通うのはすごく大変なことなので、近くにご家庭が安心して通える施設があるというのは、やはり区の中で大事なことなのではと思う。またその近いところに通わせたいという考えの中には、住んでいる地域の中で育てていきたいと思っている方もたくさんいらっしゃるのではないかと、日々幼稚園で仕事をしている身として感じた。預かる時間について、延ばせばいいということではないというお話があったが、園庭がない保育園などさまざまな保育施設に通っているお子さんが、預かり時間が延びることで幼稚園を選択できるようになり、良質な環境の整った中で過ごすことができるようになるという一面もある。今すでに通っている方に対して預かり時間を延ばすという意味合いではなくて、現状では保育園を

選択せざるをえない家庭が、少し条件を変えることで、自分たちもちょっと頑張れば幼稚園に通わせられる、と考えられるようになれば、選択できる施設の幅が広がって、幼稚園も検討の範囲にしてもらえるのではと考えている。幼児教育の重要性をもっと早い段階から広めていきたいという話もあったが、実際に幼稚園で説明会や未就園児の会を行ったときに来てくださるのは乳児の保護者。0歳児や妊娠中からお母さん方は通う施設を検討されているという話があったが、0歳1歳児の保護者の方に、幼児教育の大事さをもっと伝える方法はないかということで、先ほどもアイデアが出ていたかと思う。そういったことをどうやって実践していけるかというところで幼児教育の大切さ、質の高さについて具体的にわかっていただけるような伝え方について工夫が必要だと感じた。これまでも公私立幼稚園で各園がそれぞれ努力をしてきたと思うが、各園の発信だけではなく区全体として乳幼児の保護者に向けた発信ができればいいのではと思った。また先ほどサービスという話があったが、英語などの早期教育なども含めた保育のサービスと幼児教育は違うということもその中で伝えていけたら。小学校以降の学校教育も含め港区全体の教育の質にも繋がっていくところだと思うので、それを区で総合的にやっていけたらいいのではないかと感じた。

L 委員

皆さんの意見や提案など具体的な例をお聞きしたが、自分の視界が広がったというか、可能性がすごくまだまだあるなと思いながら聞いていた。私も資料の項番の分類によらず考えを述べたいと思う。遊び込める環境の充実という意見が出ていたと思うが、区立幼稚園では今年度の新規採用の職員も多く、全体的にも若手教員が増えていることもあり、そういった遊びの文化の伝承というのがなかなか難しい状況にある。これまでは先輩教員が、経験の浅い若手教員に丁寧に一緒に仕事をする中で教えていくことが可能だったが、中堅の教員がいないなどもあって、若手教員たちにどのように幼児教育の重要性や、環境を通して行う教育のやり方・考え方などの理解を広めていくか、という難しさが、保護者だけでなく実は身近な教員の中でもあったりする。こうした課題については、研修を通じて、幼稚園だけでなく保育園やさまざまな幼児教育施設も含め区全体で向上を図っていかなければならないと思っている。教育・保育内容については、教育委員会と子ども家庭支援部とで連携しながら、力を入れていかななくてはならない。今もすでに国が進めている幼稚園と小学校の接続に関する架け橋プログラムというものがあり、保育園の保育士、幼稚園、小学校の教員合同の研修会などをしており、幼児教育の大切さについて共有しているものの、どのように形にしていくか、というのが現場の悩みでもある。数や言葉など目に見えやすい部分や、名前が書けることはすごいことだが、そういったいわゆる早期教育ではなく、文字が書けることよりも幼児期は文字に触れるということが大切。研修会を通してそうした相互理解を進めているが、それが教員一人ひとりに浸透して実践できているかという、まだ課題もある。現場では保護者の期待に応えないと、という思いなども交錯して十分な浸透に至っていないのだと思うが、研修等の進め方についても今後考えて、幼児教育の質にこだわっていきたい。幼稚園は園庭なども含め豊かな環境であるということ、またその園庭でいろいろなことが育まれているということがしっかり伝わるように、区立幼稚園では毎年いずれかの幼稚園で研究発表会を行っている。主に区立の関連施設に周知しているが、私立幼稚園や私立保育園にもしっかり開かれたものとし、一般化していいものについては全体で取り組んでいかなければいけないと改

めて思ったところ。まさに今年度F委員の幼稚園では、園庭に着目して環境の充実を図っていく研究もしているのでこれは何か大きなチャンスだというふうに思っている。先ほど共有されたC委員の意見の中に熱中症対策に関する意見があったが、今まさに毎日暑くて対策が必要だと実感していることだと思う。近年夏が暑いだけではなく、春から暑い日が続いている。春は園庭での外遊びなどもいい季節だったはずなのに、外に出ると暑いので部屋で遊ぶようになっていたり、せっかく公園での環境がいい時期なのに十分に遊べないということもあったりしており、ハード面での支援や対策や必要だと思っている。ミストの効果はよくわからないが、ひさしやテント、樹木など、何か日陰になるようなものが園庭の中にあると過ごしやすくなるし、ハード面のそういった工夫ができるといいと改めて感じた。

B委員

皆様方のお話を聞いて改めて、多様な立場で発言されてそれをみんなで受け止めながら進めてきたということ、そしてたくさんの意見がある中で事務局の皆様にはご苦労いただいたと思うが、ポイントを絞って資料にまとめていただいたことで、また話が深まったと思っている。本当に感謝している。特に今日私が印象的だったのは、いろいろなデータを見たときに、H委員などからも再度の発言があったが、私達が大事にしている幼児教育というものがなかなか保護者に伝わっていないということ。これまで3回にわたって、港区の子どもたちにどんな幼児教育をしたいのかということ、皆様のそれぞれの立場から意見を交わした中で、私達の中で、こういうことを大事にしたいということがみんなで共有しやすいものになっていったということ、すごく印象深く受け取った。これがとても大事なことで私は思っている。そして何よりも公私立の区別なく、幼稚園のことをみんなで考えて、港区の幼稚園が大切にしていること、それに伴う方策、例えば先ほどお話にあった保護者主催の講演会の公開など、一緒に関わりながら取り組めることは具体的になっていってほしい。そのときに、ぜひ区で持っているリソース、仕組みを利用して周知していけたらいいと思っている。アンケート調査結果において私立幼稚園を選んだ方の理由では、教育方針で選んだ方が非常に多かった。長年にわたり理念に基づいた教育を続けられてきていることが、利用される方に伝わっているということを感じて。子育てをゆっくりと、幼稚園と一緒に取り組んでいきたいという方もいて、そうした方が安心してご自身の考えに沿った子育てをできるような仕組みを確保していくことが大切だと思う。そしてどのような育て方をしたい方もその考えを大切にされるべきであって、それが港区だからこそできるのではないかなと思う。いわゆる教育課程外の教育時間の過ごし方についても、保育時間は一定程度あるといい、という方もいて、一方ではそういうものは必要なくしっかり家庭で子育てをしたいという方もいる。そのどちらにも対応できることを発信していくことも大変重要なことだと思う。前から話題になっているが、例えばこども誰でも通園制度のような新しいものを使いやすい形で実施できるような仕組みの工夫ということも、行政含めてこれからやっていけるといいだろうと思っている。本日お話しがあったこと、例えば今の暑さ対策のことや人材確保のことなどについては、別途会議があると聞いているので、引き続き検討していただけるとよいのではと思っている。

A委員

皆さんのお話を聞いて、幼稚園の教育の大切さがなかなか伝わっていない、浸透してな

いのだという印象を受けた。委員の皆さんの意見やアンケート調査の結果などを見ると、港区の幼稚園教育はある一定程度の評価を受けている一方で、発信の仕方にまず課題があるということがわかる。それからもう1点が、幼稚園教育ということよりは、幼児期の教育の重要性について保護者の理解を深めるための発信をする必要があるということ。保育園にいるお子さんも幼稚園にいるお子さんもどちらに対しても、幼児期からの教育の重要性を広めるために、もう少しきちっとした形で発信していくといいのでは。そのためには、いろいろなご意見が出たように、地域のセンターとしての役割を持つ幼稚園の役割が重要であることと、PTAなどの団体、あるいは行政を交えての情報発信が重要であり、そうしたさまざまな立場の人が幼児教育の重要性や幼稚園のよさについて発信できるような環境を整えるということも必要なかなと思った。具体化していく過程でいろんなことがまた一つの課題として出てくるのかなとも思う。本日検討会は4回目となり、3回目までの検討や皆様のご意見のなかで、同じような発言が繰り返された場面もあったが、振り返ると3回目の検討会においてこれまでの意見を踏まえた、充実した皆様方の本音の部分が意見として出てきたことによって、今回方向性がまとまってきたような気がする。さまざまご意見をいただいた委員の皆様に感謝している。資料4にあるこれまでの意見、今回いただいたご意見、いずれもとても貴重なご意見として、最終的な検討会の報告としてまとめさせていただきたい。次回の検討会は報告案を提示してまとめる方向なので、また皆さんからご意見をいただければと思っている。

3 その他

【事務局より】

次回の第5回港区幼稚園教育振興検討会は9月17日（木）を予定。